

浮世絵にみる旧東海道と戸塚宿

解説の巻

江戸時代の東海道には五十三次と呼び親しまれている宿場が置かれており、その一つが慶長九（一六〇四）年に成立した戸塚宿です。ここは東海道の起点である江戸日本橋から一〇里半（約四二キロメートル）の距離にあり、朝に江戸を発った旅人が最初に宿泊する宿場として賑いました。この戸塚宿の歴史を再認識できる、旧東海道に連続する古地図や浮世絵を、戸塚区総合庁舎に連絡する地下通路にパネルで再現して展示しています。



① 東海道分間絵図
遠近道印著 菱川師宣筆

「分間（ぶんけん）」とは測量の意味で、測量に基づいて、東海道の距離を縮尺しています。地図製作者として評価を得ていた遠近道印（おちこちどういん）が作成した正確な「分間図」を基にして、菱川師宣が街道の情景を描いています。縮尺が正確で情報満載の案内記であることも、見て楽しめる街道絵図として好評を博し、初版年中に早くも改修版が出され、元禄一六（一七〇三）年、正徳元（一七一）年と繰り返し再版されています。

国立国会図書館所蔵

② 東海道五拾三駅 六 戸塚 焼餅坂

二代広重

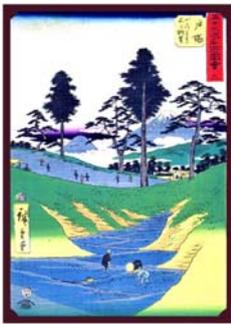


横浜市歴史博物館所蔵

両側に松並木が続く焼餅坂の情景を手前に、遠景に富士山を望む構図。風景や往来する旅人が穏やかに描かれている。

③ 五十三次名所図会 六 戸塚 山道より 不二眺望

初代広重



横浜市歴史博物館所蔵

構図が縦（たて）になっていることから、一般に縦絵東海道と呼ばれるシリーズの内、戸塚宿を描いたもの。坂道の東海道を中央部に配し、ほぼ上下に分割した構成になっている。

④ 五十三次 戸塚

初代広重



横浜市歴史博物館所蔵

人物を主体とした構成から、人物東海道と呼ばれるシリーズの内、戸塚宿を描いたもの。東海道の松並木の手前に旅姿の女性三人を置き、背後の富士山の一部を手の前の松の幹で隠すことにより遠近感を出している。

⑤ 東海道五十三次の内 戸塚駅 早野勘平

豊国



国立国会図書館所蔵

役者を題材にしていることから、役者東海道と呼ばれるシリーズの内、戸塚宿を描いたもの。前面に仮名手本忠臣蔵の早野勘平を、背景には柏尾川に沿った東海道と戸塚宿を配置している。早野勘平を演じている役者は市川團十郎である。



⑧ 東海道 六 五十三次之内 戸塚 初代広重

版元が萬屋であることから、萬屋東海道と呼ばれているシリーズの内、戸塚宿を描いたもの。日暮れ近い道中を戸塚宿へと急ぐ旅人を描く。左下の川は柏尾川である。

横浜市歴史博物館所蔵



⑦ 東海道 五拾三次之内 戸塚 (再刻) 初代広重

保永堂版の再刻図。保永堂版は、好評のため何度も増刷され、版が磨滅するものも出るようになった。「こめや」の軒先、馬の左の旅人、二点が大きな違いである。

横浜市歴史博物館所蔵



⑥ 東海道 五拾三次之内 戸塚 初代広重

保永堂版と呼ばれるシリーズの内、戸塚宿を描いたもの。吉田橋周辺が題材とされている。橋の左側に「左りかまくら道」との道標が見え、東海道と鎌倉道の分岐点であることがわかる。

横浜市歴史博物館所蔵



⑪ 戸塚 葛飾北斎

富士山を遠望できる程、眺望の利く茶屋の情景を描く。茶屋の中には、くつろぐ二人連れ、客が、また軒先には今まさに出発しようとして身支度に余念のない旅人が見える。

横浜中央図書館所蔵



⑩ 東海道 五拾三次人物志 戸塚 一勇斎国芳

戸塚の宿付近にある立場の茶屋で縁台に座って一服つける人、茶を飲む人、その休憩する人々に辺りの風景を指さしながら説明する駕籠昇き（かごかき）の姿も描かれている。

横浜中央図書館所蔵



⑨ 戸塚 国長

戸塚宿内を行く、馬に乗った旅人とそれをひく馬子を描く。画面左側に高札場が、右側に「天王」の額を掲げる朱鳥居があり、現在の八坂神社付近の情景であることがわかる。

横浜中央図書館所蔵



⑫ 東海道 五十三次之内 戸塚 初代広重

「東海道」という文字が行書体であることから行書体東海道と呼ばれるというシリーズの内、戸塚宿を描いたもの。坂の下に続く家並みは戸塚宿と思われ、大坂の上から見下ろす構図である。

横浜市歴史博物館所蔵

設置場所

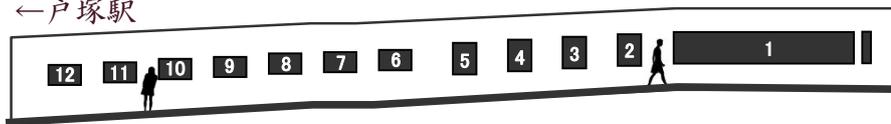
戸塚駅

戸塚駅から戸塚区総合庁舎地下1階へアプローチする地下連絡通路の壁面

戸塚区総合庁舎地下1階

自転車駐車場

←戸塚駅



「浮世絵にみる 旧東海道と戸塚宿」解説の巻

編集発行：横浜市都市整備局再開発課・戸塚区政推進課
協力：横浜市歴史博物館 学芸員 齊藤司
発行年月：平成25年3月